

正誤表

下記において誤りがありましたのでお詫びとともに訂正します。

教科書の理解度を試す 復習テスト<三級シャシ>

P2 〔1〕の解答欄	誤	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>イ</td> <td>ロ</td> <td>ハ</td> <td>ニ</td> <td>ホ</td> </tr> <tr> <td>答</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		イ	ロ	ハ	ニ	ホ	答					
		イ	ロ	ハ	ニ	ホ								
答														
正	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>答</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		1	2	3	4	5	答						
	1	2	3	4	5									
答														
P18 〔3〕の〔A〕	誤	〔A〕図のようなゲージを用いて、 右側 フロント・ホイールのキャスタ角度を測定する場合には、まず、タイヤの空気圧を点検、調整した後、ホイールを直進状態で（イ）の上に乗せ、ブレーキをかけた状態でフロント中央部を3～4回ゆすってサスペンションを落ちつかせ、測定用ゲージをホイールに取り付け、（ロ）の気ほうを中心に合わせる。次にホイールを 右側 に（ハ）切り、ゲージのアジャスト・スクリュでキャスタ・スケールの気ほうが（ニ）の位置になるように調整し、ホイールを直進状態に戻した後、反対方向に（ホ）切り、そのときのキャスタ・スケールの目盛りを読む。												
	正	〔A〕図のようなゲージを用いて、 左側 フロント・ホイールのキャスタ角度を測定する場合には、まず、タイヤの空気圧を点検、調整した後、ホイールを直進状態で（イ）の上に乗せ、ブレーキをかけた状態でフロント中央部を3～4回ゆすってサスペンションを落ちつかせ、測定用ゲージをホイールに取り付け、（ロ）の気ほうを中心に合わせる。次にホイールを 左側 に（ハ）切り、ゲージのアジャスト・スクリュでキャスタ・スケールの気ほうが（ニ）の位置になるように調整し、ホイールを直進状態に戻した後、反対方向に（ホ）切り、そのときのキャスタ・スケールの目盛りを読む。												

初版～第7刷向（H18.7.25現在）(株)整研出版社

教科書の理解度を試す 復習テスト<三級シャシ>

P18 〔3〕の〔A〕	誤	〔A〕図のようなゲージを用いて、左側フロント・ホイールのキャスタ角度を測定する場合には、まず、タイヤの空気圧を点検、調整した後、ホイールを直進状態で（イ）の上に乗せ、ブレーキをかけた状態でフロント中央部を3～4回ゆすってサスペンションを落ちつかせ、測定用ゲージをホイールに取り付け、（ロ）の気ほうを中心に合わせる。次にホイールを 右側 に（ハ）切り、ゲージのアジャスト・スクリュでキャスタ・スケールの気ほうが（ニ）の位置になるように調整し、ホイールを直進状態に戻した後、反対方向に（ホ）切り、そのときのキャスタ・スケールの目盛りを読む。
	正	〔A〕図のようなゲージを用いて、左側フロント・ホイールのキャスタ角度を測定する場合には、まず、タイヤの空気圧を点検、調整した後、ホイールを直進状態で（イ）の上に乗せ、ブレーキをかけた状態でフロント中央部を3～4回ゆすってサスペンションを落ちつかせ、測定用ゲージをホイールに取り付け、（ロ）の気ほうを中心に合わせる。次にホイールを 左側 に（ハ）切り、ゲージのアジャスト・スクリュでキャスタ・スケールの気ほうが（ニ）の位置になるように調整し、ホイールを直進状態に戻した後、反対方向に（ホ）切り、そのときのキャスタ・スケールの目盛りを読む。

H17.9.28発行第8刷向（H18.7.25現在）(株)整研出版社